

【万仏山登山コース案内】

(令和4年12月6日改訂)



●登山コース概要(下のコース図参照)

1. 万仏山参道登拝コース
2. 山伏(禅頂修行)コース
3. 城山万仏山トレイル
4. 岩岳展望台&岩岳尾根コース
5. 南回り馬曲乗越コース
6. 行者尾根コース



ここでは万仏山のみの登山コースを紹介しています。他の周辺の登山コースについては、以下のページを参照してください。

○山伏(禅頂修行)コース(2)と小菅山周辺(7、8、10)

<http://www.asahi-net.or.jp/~ca7s-kbys/hp3/manbutsu/kosugeyama1.pdf>

○城山(城ノ峰)登山コース(3、9、11、12)

<http://www.asahi-net.or.jp/~ca7s-kbys/hp3/manbutsu/jonomine2.pdf>

○城山万仏山トレイル(3)

<http://www.asahi-net.or.jp/~ca7s-kbys/hp3/manbutsu/JM1.pdf>

◆万仏山参道登拝コース(1)

[福島神社(0.05←→0.10)阿弥陀堂入口(0.20←→0.30)万仏山登山口(0.25←→0.40)お堂(0.40←→1.00)山頂(南峰展望台往復 0.15)] ※お堂と山頂間は個人差が大きい

古くからの参拝、登頂コースであるが、危険箇所も多く、登山に際しては、十分な注意が必要である。全体を通して、カナヅル(鉄鎖)、窓岩、見晴岩、鏡岩、屏風岩、天狗の土俵、梯子岩、南峰展望台など、見どころが多く、変化に富んでいる。

三十三観音を見ながら登るとなると、福島神社の林道分岐から阿弥陀堂入口を経て、万仏山入口手前の駐車スペースまでは徒歩となる。時間に余裕があり、下山時に、観音像や棚田をゆっくり見学してのんびりするなら神社からの徒歩をお奨めする。

林道終点の万仏山入口には22番観音があり、登山道はそこから杉林の中を直線的に登って行く。この参道の22番から29番観音までの間は、令和元年8月のゲリラ豪雨により大きく荒れてしまったが、登山に関しては支障はない。まもなく23番観音を過ぎると、左に24.25番観音を迂回する道がある。特に観音を見るのが目的でなければ、真っすぐに登ったほうが時間的に早い。植林が疎らになり暫く登ると横に桂の大木の生えた花立岩(30番観音)がある。ここからお堂(万仏岩)までは急な登山道を一挙手一投足である。お堂手前の滑りやすい急斜面にはロープが張ってある。

急な坂を登りきるとお堂があり、万仏岩が覆いかぶさっている。お堂前は広場になっており休憩するのに良い。横にある33番観音像から岩龍窟奥に入ると大日如来と弘法大師の石像が置かれ霊山の雰囲気を出している。この石造2体は三十三観音より古く、江戸元禄時代に建立されたとのことである。



登山道はここから一変し、山頂へは危険な岩稜や灌木帯に張られたロープ(一部鎖あり)を掴んでの変化ある道となる。急斜面のロープと鎖を登ると痩せた尾根に出る。、暫く行くと、岩稜(蟻の塔渡り)の下が貫通した穴になっている



「窓岩」があり、大日如来像が置かれている。さらに登ると、見晴岩となる。ここからの眺めは素晴らしく、眼下に福島集落とその先に菜の花公園と千曲川、遠方には北信五岳を望むことができる。晩秋に見られるここからの雲海は、一見の価値がある。

一息入れた後は、右に屏風岩を見ながら蟻の塔渡りを過ぎ、ロープの張られた急な梯子岩の斜面を登ると南峰との分岐に出る。左へ進むとテープの巻かれたブナのある山頂に到達する。展望は優れず、西方に妙高山が望めるのみである。

山頂まで来て時間があったら、直ぐに下らず、南峰の展望台まで行ってみることをお奨めする。展望台からは眼下に馬曲の集落、そして北志賀の山から高社山、北信五岳、遠く北アルプスまで見渡すことができる。春のイワウチワ(トクワカソウ?)の咲くころに、馬曲側からの登山記録があり、北峰北側の鞍部から山頂に登っているが、登山道は不明瞭である。ゆっくり景色を楽しんだら、分岐まで戻り登ってきた道をロープに掴まり、スリッパに注意しながらお堂まで下れば一安心である。



鉄鎖しかなかった昔に比べれば格段に登りやすくなったとはいえ、ロープの張られていない窓岩の上や見晴岩など、落ちたら即死する場所もあることを念頭に行動してもらいたい。

子供連れの場合は、8ミリ以上の登攀用ロープ、ハーネス、ビレイ器、スリングなどがあると安心して登れる。

◆行者尾根コース(6)

[第26番観音分岐(0.30←→0.40)鉄鎖(カナヅル)上]

このコースは2016年に新たに拓かれたコースで、万仏山西面主稜の末端から入り、カナヅル上でお堂経由コースに合流するお堂コースのバリエーション的コース。まだ一般的とは言い難く、しっかりとした登山道とはなっていない。下りは滑りやすく危険なところもあるので、登りに利用し、下山はお堂コースを下るのが良いと思われる。春先に、お堂の先に多量の残雪がある時は、こちらの方が安全に登れると思われる。

第26番観音から左に踏み跡を入り、トラヴァース気味に登ると、2~3分で行者尾根の取り付きに着く。ロープ伝いに急斜面を登り、突き当たった岩を地盤剥離に気を付けて右から岩場をロープを掴んで回り込むように登ると傾斜の落ちた尾根上に出る。そこから本沢側の断崖に注意しながら尾根を辿る。小さなギャップのある”切戸岩”を木に掴まりながら慎重に通過し、さらに登って行くと小さな岩場が立ちはだかる。ここは尾根伝いに岩場をフィックスロープを頼りに登り、蟻の塔渡りを過ぎると、カナヅル(鉄鎖)上でお堂からのコースに合流する。あとは山頂まで上記コース(1)を登る。

◆南回り馬曲乗越コース(5)

[第29番観音分岐
(0.40←→1.00)南峰展望台]

このコースは令和2年春に新たに拓かれたコースで、変化があって楽しく、南峰への最短コースでもある。

しかしこのコースも他の登路と同様岩場ありフィックスロープありで、のんびりハイキングという訳にはいかず、子供連れの場合はロープを持参するなど十分な注意が必要である。

また、開かれて間もなく、未だ十分な整備がされているとは言えず、一般的とは言い難いので、山の初心者には入り込まない方が良い。

巨大な流木が横たわる29番馬

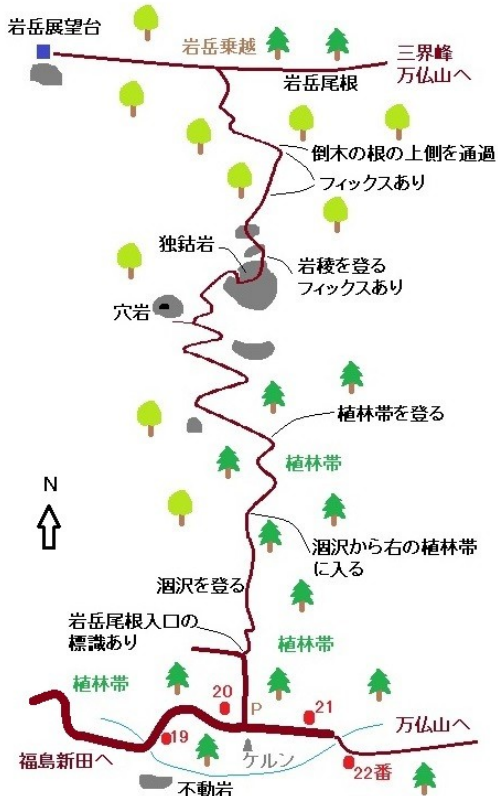
頭観音から右に斜面を右上して行き、小さな岩場を登って尾根を少し登ると正面に岩場が立ちはだかる。フィックスロープの張られた凹状部を慎重に登り、さらにロープの張られた尾根を辿ると杉の植林帯に入る。小さな岩場を登って左上して行き、ゴーロの右側から上部を左にトラヴァースすると、まもなく馬曲乗越に着く。ここから左へ尾根を暫く登ると小さな岩があり、そこから岩稜状のやせ尾根が続く。特に難しい場所があるというわけではないが、北側斜面への転落は致命的大事故につながる可能性が大なので慎重な行動が必要である。最後は急な斜面のフィックスロープを登れば南峰と展望台の中間地点に飛び出す。

展望台で北信五岳や遠くの北アルプスの眺望を楽しんだら、あとは主峰山頂まで登り、下山はお堂(万仏岩)コースを下ると変化があり面白い。



◆岩岳展望台コース(4-1)

[万仏山登山口駐車スペース(0.40←→1.00)岩岳乗越(←0.05→)岩岳展望台]



このコースは、2018年に新たに拓かれたコースで、岩岳の岩場上の展望台を目指すコースである。途中岩場が連続するが、フィックスロープが張ってあるので注意しながら登れば特に問題はない。なお、小さな子供がいる場合はロープを持参した方が良い。

第20番観音のある万仏山登山口(駐車スペース)から、岩岳方面(北方左)へ草の茂った林道を登って行くと、林道は行止りとなる。「岩岳尾根入口」の標識から涸沢状の窪みに付けられた踏み跡を登り、途中から杉林の中を九十九折りに登っていくと、右上に岩尾根が迫ってくる。左に穴岩(写真下:大きい穴が熊穴、小さい穴が鼠穴)を見送り、さらに少し岩尾根の左側の斜面を登って、右の岩尾根途中の独鈷岩(写真下)右横から岩尾根に上がりフィックスを辿る。岩場を過ぎ、さらに切り開きの中のフィックスを頼りに登って行くと、台風で根こそぎ倒れた風倒木がある。以前ここは下を通過したが、台風後は倒木の根の上側を通過する。あとはトラヴァース気味に左へ登って行くと岩岳乗越に飛び出す。

右に尾根を登って行くとイワウチワコースで、本沢ノ頭へと続くが、左に岩岳方面に尾根を辿ると、まもなく南側の

展望が開け、万仏山本峰や飯山市街地、飯縄山方面が見渡せる展望台に着く。北側の展望はない。岩岳の最高点はさらに西側に行ったところであるが、ここから先は灌木の藪となってしまう登山道はない。展望台手前では初夏の頃ムラサキヤシオが花開き目を楽しませてくれる。

熊穴



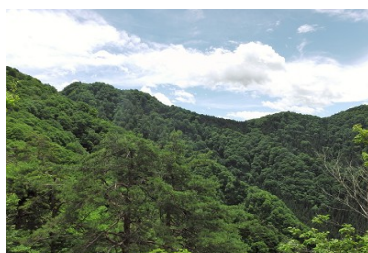
鼠穴



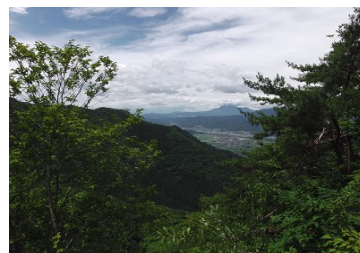
独鈷岩



岩岳からの万仏山



岩岳からの飯山市街地



帰路は乗越まで引き返して登山口の下るが、時間が許せばイワウチワコースを登り三界峰まで足を延ばしたり、万仏山を周回するコースを選べば、充実した山行となる。

◆岩岳尾根イワウチワコース(4-2)

[岩岳乗越(0.40←→1.00)小菅山禪頂修行コース合流点(鉢窪の分岐)]

このコースは、前記のコースと同時期に拓かれた新規のコースである。岩岳の鞍部から展望台コースと分かれ岩岳尾根を登り本沢ノ頭の前で小菅山禪頂修行コースに合流する。

岩岳展望台コースの岩岳乗越分岐から右に岩岳尾根を登って行くと、まもなく倒木を越える。以前ここは左の桧林の中に道があったが、風倒木で遮られたため今は尾根上新たな道が引かれている。その先は急傾斜の桧林となるが、登山道の両側はイワウチワの群落が続く、春にはイワウチワの花でいっぱいとなる。暫く登っていくと、途中小菅山と鍋倉山が見渡せるところがあるが、そこ以外は展望はあまりきかず、桧、櫟、ブナの混合林が続く、少々単調である。次第にブナが多くなり、最後にちょっとした岩場のフィックスを登ると間もなく本沢ノ頭(1230m)である。展望はきかず、東に登山道を少し下ると、鉢窪の分岐で万仏山から三界峰へと続く山伏(禪頂修行)コースに合流する。

ここからは三界峰を往復し、万仏山山頂からお堂へと下る周回コースがお勧めだが、そのまま同コースを下山しても良い。なお、お堂から山頂を経由しこのコースを下るという逆コースも面白いと思われる。